

事例 5 思考展開シート

(1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

痛み止めの薬（NSAID オピリン）の影響はない
認知症に対して塩酸ドネペジル（アリセプト）を服用すると焦燥感が強くなるために服用できない。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

腰痛がある時には床から起き上がる時に苦労するが、普段は痛みがない時もあり、日常生活は自立できる

不眠は自分の「この先」を考えたとき、認知症の心配をすると時々経験する。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

とてつもない悲しみに打ちひしがれている。これまで社会的に活躍し、市民や行政官の前で健康講座などの講師をしてきただけに、この認知症への恐怖、自分に対する自信の欠如が目立つ。

(4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

アルツハイマー型認知症になってから、周囲の音がとてもうるさく感じられるようになって、より苦しくなった

本人の言葉や状態

ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみましょう。

「私の気持ちは誰もわかってくれない」
「介護保険では私の要望に応じてくれるところがない」
「医療機関なんて私の話をまともに聞こうともしない」
自らの認知症への不安と恐れが強くなるにつれて、周囲への攻撃としがみつきの激しくなる。

(5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

一人娘も「しっかりした母親」というイメージから抜け出せず、何かと疎遠になりがちである。

(6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等物的環境による影響は考えられますか？

独居であるために一人で考え込む時間が長く、考えれば考えるほど自信がなくなってしまう。

住居はマンションであり、隣人との接触が極端に少ない。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー（活動）とのズレによる影響は考えられますか？

ADL, IADL は保たれている。認知症も軽度であり、むしろ多くの能力が残っているために、介護保険のサービスが利用できない。

(8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？

指導的立場の人生が、認知症への恐怖のために激変し、自分のこの先の姿を想像すると、とてつもなく気分がめいってしまう。

何とかしたいが、自分の「よるべなさ」を誰もわかってくれない。